

煌びやかなイルミネーションで、クリスマスモードが盛り上がるなか、高い木の枝先に、採り残された柿の実が一つ師走の風にちょっと淋しげに揺れていました。

子供の頃、季節はゆっくり、とても穏やかに廻っていたように感じたものですが、年齢とともに一年が途轍もなく早く過ぎ去っていく気がします。



ちょっと素敵な随想に出逢えました。ご紹介します...

〜母なるもの〜

『女優の山岡久乃さんが亡くなったことを伝える新聞の見出しには、「日本の母逝く」とあった。それは彼女が、お芝居やテレビドラマの中で「母」を演じ続けたからだし、共演者たちに、母のような気配りを見せていたからだ。

森繁久彌さんが「あの人のこしらえたお弁当を食べなかった役者はいないんじゃないかな。みんなあの人のお弁当で育ったんだよ。」と言っていたのが印象に残った。

ところで、私生活の山岡さんは子どもを持たなかった。若い頃、一度経験した結婚生活の中で、それを望んだけれどもかなわなかったのだ。

実際には母でない自分が、母を演じて「日本の母」と言われることの切なさを、親しい友人に洩らしたことがあったという。

母という言葉にも存在にも敏感だった心根が、山岡さんの女優魂を支えたのかもしれない。

人は、子どもを産まなくても母になれる。
また、自分を生んでくれた母だけでなく、
誰かを母と慕うことのできることも、
幸せなことである。』

